

児童生徒の成長に応じた学級活動の展開の工夫

—— 小学校入学から中学校卒業までを見越した学級活動の展開の工夫 ——

特別活動研究会議

研究員 丹沢 恵美子 (川崎市立はるひ野小学校) 秦 麻弥 (川崎市立土橋小学校)
齋藤 健太郎 (川崎市立塚越中学校) 横山 容子 (川崎市立橋中学校)
指導主事 川野 佳秀

I 主題設定の理由

子どもたちの現状と課題として、平成20年1月の中教審答申では、「自分に自信がある子どもが国際的に見て少ない。学習や将来の生活に対して無気力であったり、不安を感じたりしている子どもが増加するとともに、友達や仲間のことで悩む子どもが増えるなど人間関係の形成が困難かつ不得手になっているとの指摘もある。」とされている。このことを踏まえて、特別活動では、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力の育成を重視することが、学習指導要領の改善の基本方針にあげられている。具体的な改善事項としては、「学級や学校の生活づくりについては、自らよりよい生活を築くために合意形成をする話し合い活動や自分たちでルールを作って守る活動などを重視する。」があげられ、学級活動の中での話し合い活動の重要性が指摘された。従来、特別活動では、望ましい集団活動を通して自主的実践的な態度を養っていくことに重点を置き、学習が進められていく。しかし、現在の子どもたちは、集団で活動することを多く経験しているわけではない。一人一人の集団での活動経験に違いがあるため、大きな集団での話し合い活動に慣れていないことが予想される。

そこで、話し合い活動を充実させていくためには、学級集団として話し合い活動を繰り返すことで、自分の意見を発表したり、様々な人の意見を聞いたりすることで、折り合いをつけていく経験を多くもつことが重要となってくる。また、各学校では、児童生徒の実態と発達段階に合わせて、話し合い活動の指導方法について工夫しながら、児童生徒に主体的に話し合い活動をさせていくことが大切となってくる。

本研究では、小中学学習指導要領で示されている学級活動の内容(1)「学級や学校の生活づくり」の軸となる学級会を中心として、その運営と手立てに着目して、本主題を設定した。

II 研究の内容

1 研究のねらい

学級活動では、学級での話し合い活動を中心に、学級や学校の諸問題の解決や学級内の組織づくり、仕事の分担処理などに関わる活動を進めていくことが重要である。しかし、小中特別活動学習指導要領解説では、話し合い活動について細かな内容が示されていない。そのため、各学級での学級活動の実際の指導方法や内容は、学級担任に任されることが多く、計画的、継続的な指導が行われていない場合もある。

本研究会議では、初任者を中心とした経験の浅い教員が学級会を進める手だてとして活用できること、各学校が学年・学級の実態に合わせた学級会の展開を工夫するときに活用できることをねらいとして、「学級会の運営と実践に関わるハンドブック」の作成をすることとした。

2 研究の方法と内容

(1) 研究の方法

学級会のよりよい運営方法や手立てについて、授業実践をもとに検討した。検討の視点としては、「望ましい学級会を進めるために、指導者として理解し、身につけておくべき事項」「児童生徒が意欲的に取り組める指導の工夫」である。

授業実践1

A中学校 第2学年 議題 「体育祭を振り返ろう」(5月)

(授業の様子)

- 教師と生徒との一対一の対応が多く、生徒同士での運営は見られなかった。
- 生徒は、まじめに活動に取り組もうとしているが、発言を促されると答えるといった受け身的な様子であった。

授業実践2

B小学校 第1学年 議題 「てんにゆうせいのかんげいかいをひらこう」(9月)

(授業の様子)

- 本学級では、数回の学級会を実施しており、児童が話し合い活動の進め方を習得しつつある段階である。
- 児童主体の授業になっており、司会や記録についても児童が意欲的に取り組んでいた。
- 児童が意欲的に発言し、学級として合意形成していくことができた。

二つの授業実践から協議した結果、学級会は指導者および児童生徒の話し合いの経験の違いにより、その運営に違いが出てくることがわかった。学級会の経験を多く積んでいくことで、指導者および児童生徒にも自信をもたせ、意欲的な活動に結びついていくと考えた。

(2) 研究の実際

学級会は、次に示す3点を意識して指導することで、運営が行えると考えた。

①学級会を柱とした学級活動の計画と運営

児童生徒が自主的実践的な活動を進めさせていくためには、事前の活動としての計画委員会・プログラム委員会を通して、学級会の運営計画を立てたり役割分担をしたりするなど、十分な準備をさせてから学級会へ臨ませることが重要である。

②望ましい学級会の展開の仕方

指導者は、基本的な学級会の進め方を習得していくことが必要である。児童生徒にも学級会の進め方を示し、共通理解を図ることで、児童生徒は自信をもって活動に臨んでいくことができる。また、実際の議題について話し合う場面では、「意見を集める」「意見を比べる」「まとめる」を意識した活動が進められることが大切である。

③学級会の実施に関わる具体的な手立て

指導者が、事前の活動として議題を集めたり、計画委員会・プログラム委員会を計画実施したりすること、事前に議題を提示し意見収集をすること、司会台本(学級会進行表)や学級ノートの作成することなど、学級会を進めるに当たっての具体的な手立てを理解し、児童生徒に提示することが大切である。

この3点を元に、学級会のよりよい運営方法や手立てについてのハンドブックを作成するために検討を進めた。望ましい学級会の在り方として、小学校特別活動研究会の授業研究会や特別活動研究推進校の授業実践を参考例として、授業実践を繰り返し、ハンドブックの掲載内容を決定させた。

(3) 「学級会の運営と実践に関わるハンドブック」の内容

学級会を軸にすえた学級活動の運営方法を最初に示し、時系列でページを追っていくことで学級会が進められるようになっていく。基本的な説明は図1のように、見出し、イラストや写真を使い、どのように指導すればよいかを一目でわかるようにした。また、学級会で使用する司会台本やワークシートなどの例を示し、指導者が作成し、活用できるようにしてある。ページの基本的な構成は見開きで、各内容が確認できるように編集した。

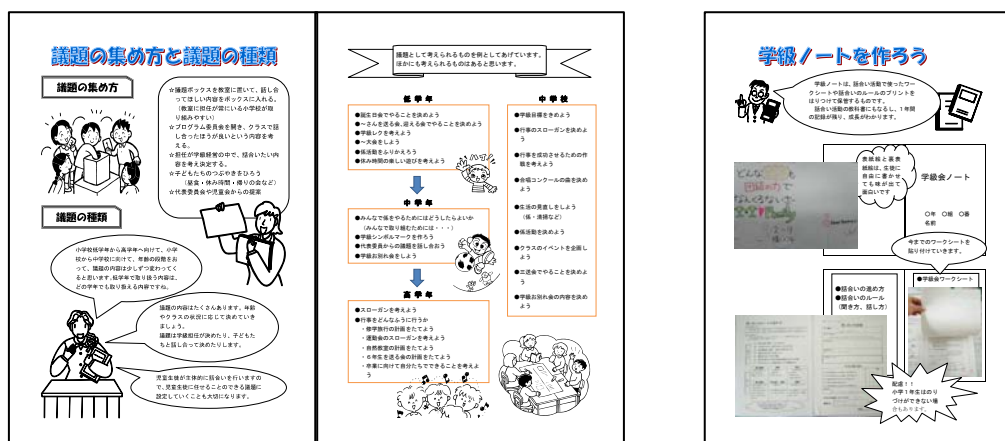


図1 ページの構成

(4) 「学級会の運営と実践に関わるハンドブック」の活用

「学級会の運営と実践に関わるハンドブック」を元に、A中学校において検証授業を行った。

検証授業

A中学校 第2学年 議題 「お別れ会でやることを決めよう」(1月)

授業の展開

生徒の活動	教師の指導
① はじめの言葉	・ 司会グループが不安感をもたないように、できるだけ近い位置で助言をする。
② 司会グループの確認	
③ 議題の確認	・ 話合いの流れがそれないように、めあてを意識して話し合ったり決定できたりするように助言をしていく。
④ 提案理由 提案者による理由説明	
⑤ 話合いのめあての確認	・ 学級会への取組姿勢、話合いのめあてや学級目標を意識した意見、司会グループの頑張りなどを積極的に認めていく。
⑥ 話合い活動 議題 【お別れ会でやることを決めよう】 意見を集める→意見を比べる→まとめる	
⑦ 決まったことの確認	・ 今日の話し合いでよかったところを考えられるようにする。
⑧ 今日のMVP	
⑨ 先生の話	
⑩ おわりの言葉	

「学級会の運営と実践に関わるハンドブック」を活用して授業実践を行った。指導者は学級会の運営方法を理解し、工夫して学級会を進めていくことができた。第一の工夫点は、授業の展開である。上記の指導案で示す授業展開で、計画委員会・プログラム委員会を通して事前打ち合わせを行い、司会、記録を生徒に任せ、自主的に活動できるようにした。第二の工夫点は、図2で示すような「話し合いのルールと進め方」を生徒全員に示したこと、生徒一人一人に学級ノートを作成し自分の考えを事前に記録してから学級会に臨ませたこと、学級会の進め方について生徒全員に周知を図り共通理解したことがあげられる。

「学級会の運営と実践に関わるハンドブック」を活用することと、生徒が学級会の経験を重ねていくことで、司会や記録などの役割を意識して活動したり、積極的に意見を発言し学級で考えをまとめる活動をしたりと意欲的に取り組むようになってきた。

話し合いのルールと進め方

話し合い活動について

学級の活動内容や、目標などを決めていく大切な活動です。自分のクラスをどのようにしたいかよく考え、1時間に1回以上は自分の意見を発表できるように頑張ります。

話し合いの雰囲気作り
話しやすい雰囲気をつくっていくためには、一人一人の意見を大切にすることです。みんなの意見をしっかりと聞きましょう。

聞き方

- ① 相手を見て聞く（にこやかに）
- ② うなずいたり、相づちをうったりする
- ③ 話を最後まで聞く（途中で妨げないで）
- ④ 必要であればメモをとって
- ⑤ 質問をするつもりで聞く
- ⑥ 要点を押さえて話の内容を理解するように聞く
- ⑦ わからないことは聞き終わった後質問する

話し方

先に結論	賛成	反対
○意見と理由をいう 私は～と思います。 理由は～だからです。	○理由をいう ～に賛成です。 それは～だからです。	○代案を出す ～に反対です。～ ～と思うからです。 ～が良いと思います。
違う意見	付け足し・修正	質問
○相手を尊重してから 自分の考えをいう ～の考えもわかりますが 私は～だと思います。 私は～のほうが良いと思 います。	○理由をいう ～さんの意見に付け足し で、～したらよいと思いま す。	○何を聞きたいかいう ～さんに質問です。～で すか？ ～さんの○○のところを 詳しく言ってください。

○手をあげて指名されたら発言しよう
○自分の思いをみんなにつたえよう
○仲間の声に耳を傾けよう

図2 話し合いの方法の提示

Ⅲ 研究のまとめ

学級会は、各学級により議題は様々である。また、学年の成長に応じて話し合う内容も複雑化してくる。しかし、その進め方については、ある程度同じ手順で学級会を進めていくことが可能である。指導者が「学級会の運営と実践に関わるハンドブック」を活用し、学級会の運営方法を理解するとともに、児童生徒に対して有効な手立てを行うことで、児童生徒の手による自主的な学級会を運営していくことができる。

特別活動は、実践を伴いながら行われる教育活動である。今後は、各学校でこの「学級会の運営と実践に関わるハンドブック」が有効に活用され、授業実践が行われていくよう、経験の浅い教員の研修や要請訪問等で周知を図っていくことが重要である。

最後に本研究を進めるに当たり、適切なお助言をいただいた先生方、研究をご支援いただいた研究員所属校の校長先生ならびに教職員の皆様に心から感謝を申し上げます。

【参考文献】

杉田洋 『よりよい人間関係を築く特別活動』 図書文化 2009年
 草薙芳哉、加藤直人 「話し合い活動を基軸に据えた特別活動の試み」
 『中等教育資料』平成23年9月号 (No. 904) 24-29頁 2011年